

平成30年1月1日

会員の皆様へ

一般社団法人
日本心血管インターベンション治療学会
理事長 中村 正人

新年のご挨拶

今年は戌年ですが、正確に言うと干支は“戌戌”(つちのえいぬ)であり戌には草木が減ぶという意味があるそうです。何か心配になってしまいますが、翌年の亥には草木の生命力、種などの中に閉じ込められているという意味が、更にその次の子年にはこの草木から芽がでるという意味が込められているそうです。従って、戌年は次へ進むための新しいステップととらえるのが良いようです。

今年が私が理事長に任命されてからの4年間が終わる年、戌年の意味から何か運命的なものを感じます。この3年間で多くの懸案事項が関係各位の精力的な委員会活動を通して、解決に向け前進することができました。専門医試験は方法、判定を大幅に改定し、昨年は受験者数が大きく増加しました。事務局を刷新し、バラバラであった会員情報は一元化され、これによって施設認定の更新、専門医の更新などは簡易化されました。公募により解析されたJ-PCIの成績は英文誌に採択されるようになりました。そして、今年から地域連携で後輩を指導教育するシステム研修施設群が始まります。周知する期間が短く参加できなかった施設が少なくないなど、まだまだ問題点はありますが解決しながら推進して行ってほしいと考えています。

また、J-PCI フィードバックシステムの運用が始まります。このシステムは本邦のPCI成績改善を目的とし開発されたもので、J-PCIの中の6項目について本邦の平均から各施設がどの程度偏移しているか知ることができるようにしたものです。情報は更新されますので経年的な変化を知ることができます。改善可能な余地があれば日常臨床に是非反映ください。

その他、教育カリキュラム、カリキュラムに沿った教本の刷新、e-ラーニング、心筋梗塞に関する患者リテラシーを高めるホームページ作成など多くの新規事業が開始に向け準備が進められています。まさに亥年子年へと続くステップです。

医療経済を取り巻く環境は年々厳しくなっており、CVITに限らずすべての領域で適正化に向けて大きく舵が切られようとしています。新規のデバイス治療が承認され臨床に導入されるためには既存の治療適正化は避けることができないことでしょう。この意味において、実臨床のデータは必須であり、また我々が行っている治療行為の臨床的意義をデータによって示していく必要があります。J-PCIの重要性がさらに大きくなることは自明の理であり、短期的なデータのみでなく長期的な成績が今後は必要となることでしょう。学会みずからプロ集団としての活動において、教育やアウトノミーを実行できるか否かが今後は問われることになるでしょう。

干支の12の動物は後付けでつけられたものですが、戌年の犬には安産にご利益があり、妊婦には良い年とのことです。今年はじめの研修施設群やフィードバックシステムなど、たくさんの新規事業が安産であることを期待したいと思います。そして、新しく迎える2018年で次への大きなステップを確実にしたいと思います。

年の初めに、会員各位の理解と協力を切にお願いするとともに、ご健勝とご多幸をお祈りして、新年の挨拶とさせていただきます。